

徳島大学と市による放射線対策事業報告会
正しく知ることの必要性を語る

3月22日、市立図書館（道場小路）で「放射線対策事業報告会」が開催されました。

報告会は、「震災復興に向けた連携・協力に関する協定」を締結している徳島大学と市の共催で、専門的な見地から行ってきた放射線に関する学習会や相談会等の結果と課題が報告されました。

続いて行われた同大学の講演では「放射線の基礎知識を正しく習得することの必要性」の話があり、約150人の参加者は、熱心に聞き入っていました。



▲熱心に聞き入る参加者

財自治総合センターのコミュニティ助成事業
宝くじの助成で災害に対する体制を強化

市では、本町防災会（加藤精一^{かとうせいいち}会長）に対して、(財)自治総合センターのコミュニティ（宝くじ）助成事業を活用し、防災活動に必要なテントや発電機などの防災資機材を交付しました。

本町防災会は、平成17年の結成以来、地域が一丸となって防災活動に取り組んでいます。加藤会長は「交付された資機材を有効に活用し、防災体制の強化に努めます」と話しました。この助成による自主防災組織への資機材の交付は、15団体となりました。



▲本町防災会の皆さん

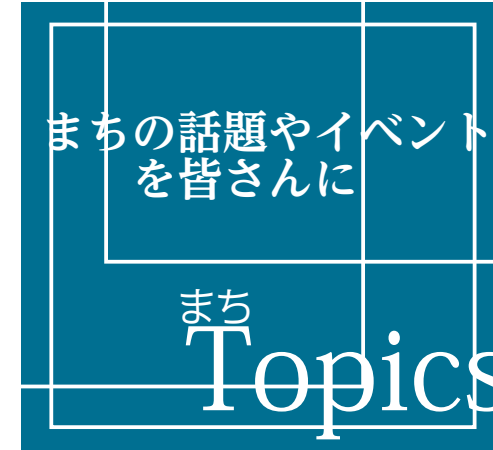
白河門前通り景観まちづくり協定を認定
美しく安全で安らぎのあるまちを目指して

3月25日、市役所で「白河門前通り景観まちづくり協定」の認定式が行われ、金屋町・愛宕町・大工町通り景観まちづくり協議会^{のくちまきぎょうかい}の野口三郎^{のぐちみさぶろう}会長に認定証が交付されました。

認定第3号となる今回の協定では、城下町にふさわしい品格のある美しさと、安全で安らぎのあるまちづくりを行うことを目的に、区域内で新築や増改築等を行う場合の高さ制限や、景観に配慮した色彩の使用などが定められました。



▲金屋町・愛宕町・大工町通り景観まちづくり協議会の皆さん



ふくしまプレDCオープニングセレモニー
JRと自治体による大型観光キャンペーンが開幕

▲オープニングセレモニーを祝う参加者

4月5日、JR新白河駅構内で、JRと自治体が協力して観光客を誘客するdestinationキャンペーン（以下DC）の「ふくしまプレDC」オープニングセレモニーが行われました。

市公認キャラクターのダルライザーとしらかわんの開幕宣言で始まり、甲冑姿の白河歴史文化研究会の皆さんが勝ちどきを上げセレモニーを盛り上げました。

続いて、参加者は、上野発午前11時12分着の団体臨時列車「急行ふくしま観光キャンペーン号」の到着を歓迎し、8分間の停車中、乗客に県南地方9市町村が推薦する「ふくしま県南9quality」の産品を振る舞いました。

今年から3年間、各地で観光誘客に向けた様々な催しが開催されます。



▲関係者で臨時列車をお出迎え

宝酒造(株)に感謝状を贈呈
土地の寄贈で地域に貢献

3月17日、宝酒造(株)から同社が所有する旧白河工場跡地（郭内）約1.8haが市に寄贈され、4月11日、鈴木和夫市長が同社（京都市伏見区）を訪問、柿本敏男社長に感謝状を贈呈しました。

今回の件は、同社の震災復興支援の一助と、長年にわたりお世話になった地域への貢献になればとの思いから寄贈されたものです。

当面は、原発事故の影響で避難している双葉町民の仮設住宅として活用されます。



▲柿本社長に感謝状を寄贈